

森林塾通信

『暑い夏の3日間@伊那谷』

集中コース(夏) 開催報告

KOA森林塾のメインテーマの一つは『手遅れになつた(なりつつある)人工林をどうしたら良いか、どのように復旧させるか』ということです。

ご存知のように、1950年代から1970年代頃までに、日本では多くの人工林が造成されました。スギやヒノキ、カラマツなどの針葉樹がほとんどです。そしてそれらの人工林の半分以上が間伐などの適正な手入れが出

来ないまま、過密な状態に置かれた山林です。

ご自分の家が林家(1ヘクタール以上の山林がある世帯をいう)であり、スギ林やヒノキ林を所有している場合、あるいはボランティアで間伐などを頼まれる場合に、間伐手順の実際をを復習してみましよう。

出来れば林班図を入手しましょう。所管の地方事務所林務課か市町村の林務担当のところにありますので、山主



お決まりのワイゼ測高器、使いにくい



キャタトラの運転もやってみました



さんにご足労願ひましよう。同時に森林簿を見せてもらえば、樹種や林齢、面積のほかに、周りの山林の持ち主もわかり、もし境界があいまいな場合はその方々と話し合うことも必要になるかもしれません。

次に現地踏査です。山主さんにも一緒に行つてもらつて、境界を確認するとともに、どんな施業を期待するのかはつきりと聞いておくべきです。

可能なら測量をして、実施面積を調べてみましょう。森林簿に記載されている面積は結構アバウト

発行 KOA森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

なものが多いので、簡単にすみそつならざつと測つて見るのも手です。間伐するべき山林の面積はしつかり押さえたいものです。

森林の現況調査をします。小面積なら全木調査を、それが大変そうなら20m四方などのプロットを取つて標準地調査を行います。プロットを残す必要がなく、ヘクタール当たりの本数だけわかればよいのなら、釣竿を使った円形プロットでもかまいません。直径や樹高のほかに、下生えの種類や量、林内の明るさ、風通しなどの見た目の状態も記録し、枝下高率などもざつと測つておけば施業指針作りに役立ちます。

森林診断書で、現況調査のデータを分析してみま

しょう。Sr(相対幹距比)や林分形状比、地位などがわかれば、どの程度込んでいるのか、どのくらいの間伐をすればよいのかが見えてきます。

施業指針を決めたいので、間伐の計画を作ります。ご自分の山林なら一通りの計画で十分ですが、委託を受ける場合なら、2、3通りが必要になるかもしれません。どのくらいの仕事量になるのか見積もるには、おそらく材積計算が必要になります。切った木は出すのか出さないのか、かかる経費の負担をどうするのか、決めなくてはならないことがいろいろあります。

所管の市町村に伐採届を出すことが義務付けられています。保安林であれば、県への提出となります。

間伐の計画に沿つて、切る木または残す木を決めます。丁寧にするなら、テープでマーキングをします。

いよいよ間伐の開始です。出すか出さないかなどを考え斜面の上から切つて

薪サイズに玉切りの練習



特別講師、島崎先生の間伐講義



毎日のお掃除と目立てははずせない

今回の集中コース(夏)で調査や間伐にお借りした伊那市野底の山林は、すごいことになっていました。10mほどに育つたヒノキ林の上層は、20m弱のアカマツです。10m四方のプロットで、まず



は樹種別に現況調査表を作成してみました。なんと、ヒノキだけでも(アカマツがな)として計算しても)過密状態でした。アカマツに至ってはSrが11程度であり、おそらく生きていくのに汲々としている状態で、肥大成長は望むべくもありません。

層のアカマツを全て伐採し、そのうえでヒノキの純林として再生したいというのが山林主さんの希望でもありました。鳥崎先生がこの仕事を受けて、すべてのアカマツの間伐を開始したところだったのです。森林塾でも少しだけではありませんが、お手伝いさせてもらいました。

集中コース(夏)

7月31日～8月2日

(金・日)

参加者/唐澤さん、木村さん、菅原さん

スタッフ/鳥崎先生、小泉、早川

次回以降の予定

通年コース第8・9回

間伐・集材

8月21・22日(金・土)

伊那市富島の金鳳寺山林でヒノキの間伐のつづきを行います。また、林内作業車、キャタピラトラクタで集材もしてみましよう。前回の通信で宿題にしました、女子班の地位とSrの再計算、できましたか? 林齢を61年、上層樹高を1mあげて19mとすると地位は16、Srも16(%)になります。選木した以上に切ってもよいという事ですね。21日(金)の夕方は前回出来なかった暑気払

いをやりましよう。布団等ありますので宿泊可です。先生の民謡や雪山讃歌(信大バードジョン)が聞けるかな? **専門コース第3回開催** 9月11・12日(金・土) 年の初めに比べて皆さんの実力もずいぶん上がってきました。今までに注意された所などをもう一度振り返り、さらにレベルアップを目指します。 8時20分、KOA森林塾鳩吹集会所集合です。 **通年コース第10・11回 見学・林道設計** 9月18・19日(金・土) 伊那市の木材市場と建具店さんの見学を予定しています。切った木はどのような経路を通って利用されているのか、どのような材が利用しやすいのか、考えてみましょう。2日目は林道設計の初歩を勉強します。手入れや収穫をするにはやはりそれなりの通勤路や搬出道がほしいものです。簡単な道なら人力でできる。

山林(やま)のSTAY&PLAY

『林業女子会』

今回の集中コース(夏)には2人の女性が参加してくれました。KOA森林塾に今までに参加してくれた女性の方は110人強で、総数600余人に対して20%弱が女性ということになるんで

すね。

さて、平成27年度版森林・林業白書によりますと、2010年、現場で働く林業従事者は5万1200人で、そのうち女性は約3000人、約6%だそうです。戦後の伐採や造林の盛んだったころには育苗や植林の、かなりの部分を女性が担っており、1980年の時点で林業従事者約15万人のうち、16%にあたる2万4000人が女性だったようです。その数が10年ごとに半減し、今では「まれ」といってもよいほど少なくなっています。緑の雇用などの効果から、男性の林業従事者数は近年下げ止まりの傾向にあるものの、女性の新規参入は少ないようです。



林業女子会@森林塾2004

Gの方のなかで、森林や林業にかかわる所で活躍されている方はたくさんいます。各地で講演に忙しいフリーライターの浜田さん、請われて林業会社の社長さんになられた原さん、石原さんや園田さんは毎日チェーンソーを担いで伐採の仕事、一級建築士

そんな中、話題になっているのが「林業女子会」です。2010年に京都府で結成されたのを皮切りに、各地に広がっているようです。この林業女子会@京都は、京都大学や京都府立大学の森林科学科の学生さんが中心になって設立されたそうで、林業関係者や建築家なども参加し、各種イベントの開催やフリーパーの作成を通して、林業の現状や魅力を女性目線で発信しているそうです。

藤野さんや竹内さん、そのほかNPOやボランティアのグループでも多くの女性の方が活躍されています。先日、鳥根県の林業研究グループのリーダー研修会、題して「女性の視点から見た森林・林業の活性化とは」を聴講させてもらいました。発表者の一人は「昨年通年コースに来てくださった滝川麻衣さん、益田市に移住され、山林(やま)を軸とした地域おこしに取り組まれています。『大好きなのは山林、まだ大好きな男性は現れておりません。』とのこと。頑張り鳥根の山の男たち!!」

『木の駅プロジェクト』

前述の森林・林業白書によりますと、保有山林が20ヘクタール以下の小規模林家は、林家全体の9割に及びますが、その7割近くが「施業を実施すべき山林はあるが、

今後5年間に実施する予定はない」と意向調査で答えているそうです。さらに後継者に継がせる意向はない、あるいは決めていないとの答えは多く、小規模では経営的に難しい現状を示しています。

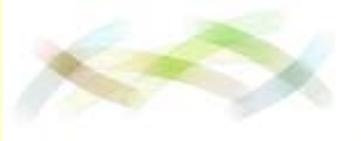
しかし最近、全国に広がりつつある『木の駅プロジェクト』にあわせ、自ら伐採や時には搬出まで行う『自伐林家』が増えてきているそうです。この『木の駅プロジェクト』は間伐材を軽トラなどで『木の駅』に持ち寄り、これを地域住民やNPO等の実行委員会が地域通貨で買い取ってチップ原料や薪などとして販売する取り組みで、地域おこしのツールとして注目を集めています。昨年の通信第11号でも岡田敏克さんが草分けである恵那市での事例を紹介してくれていますが、1トン当たり地域通貨で4000〜6000円

円で引き取ってくれるのでちよっとしたお小遣いにはなりませんね。軽トラ1杯だと、同2000〜3000円でしようか。地域通貨は地域の商店で使用可です。チップ材料等の買い取り価格が下がっている現在、実行委員会にとってこの値段はほぼ逆ザヤですが、ここが腕の見せ所、みんなで話し合っってよい知恵を出してください、とは仕掛け人であります丹羽健

司さんの弁

森林塾OBでもあります丹羽さんは、元農水省の職員、現在はNPOで地域再生マネージャー・木の駅アドバイザー等のお仕事をされています。木の駅のHPを見ますと、現在全国で33の木の駅が活動をしているようです。中でも丹羽さんのお膝元の岐阜県では7つの駅があります。ポータブルウィンチなどの簡易集材装置を使って自伐林業を進めようという活動を始めた鳥根県には4つの木の駅があります。また、長野県では辰野町の『信州木の駅プロジェクト』が2012年3月に発足し、また根羽村の『木の駅ねばりん』も活動を開始しています。この二つの駅、材の用途は主にストロー用の薪だそうです。

リレ=通信



「これからもお世話になります」
八木 敦巳

初めまして。八木敦巳と申します。去年の第4回と今年の第2回から専門コースに参加させて頂いています。私の出身は、愛知県の愛西市という余り聞きなれない所で、そこに住んでいます。なので少し愛西市を紹介し

は、「葉生姜」「矢生姜」で、はじかみ生姜として5月から9月に全国へ出荷されます。このはじかみ生姜、私の住んでいる佐織地区で生産されています。なんと全国でも有数の産地なのです(今まで知らなかったです)。また愛西市は濃尾平野なので、基本的に山が有りません。そんな私が、山仕事に興味を持ったのは10年位前にテレビ番組で、林業の特集を見た時でした。その当時の私は、林業の言葉は知っていましたが、特に意識した事が無く、あまり興味が無かったのですが、この番組に出ていた樫が大きな大径木を緻密に計算して、他の木に引っかけず狙った通りの位置に伐倒したのを見てとても驚きました。「世の中にはこんな職業が有ったんだ」と衝撃を受けました。

かれています。その中で林業を目指す人向けの講座があり、私も参加したいと思いました。その当時の私は『豊田市=大部遠い』というイメージが有った為、何回も通うのは無理だと思いその時は諦めていました。それから年数が経ち、今から2年前に、親戚の庭に植えてある松が、枯れて腐りかけていました。父親と二人で倒そうということになり、買ったばかりのチェーンソーの箱に入っていた、受け口と追いつ口の作り方の冊子を読みながら、受け口らしき物を作り、その後追いつ口らしき物を入れたのですが、冊子を最後まで読み切らず、ソルまで全開で切ってしまいました。その結果、松が隣の木に掛かり、私がロープで揺らしたり引っぱったりして外しました。

しかし、倒れてきた松の幹はかわせたのですが、枝の部分がよけきれず頬と顎に当たりました。一瞬間が裂けたと思っただけで、痛い痛みや熱さを感じました。幸い枝葉が少なかっただけで、擦り傷程度で終わりましたが、もう少し前に出ていたらと思うと今でも、ゾッとします。でも、松を倒した時の達成感やもっと安全に木を倒す技術をも身につけたい思い、翌年とよた森林学校に応募し



その時はそれで終わったのですが、その後新聞に愛知県豊田市に『とよた森林学校』が出るので、講座の参加者を募集する内容の記事が書

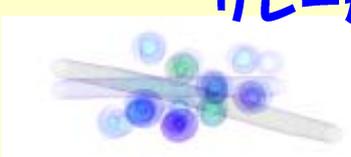
ました。講座は、セミプロ養成講座だけにしようと思いましたが、始まりが11月位からでして、9月から始まる2泊3日の初級間伐講座もチェーンソーを使って伐倒するので、ついでに受講しようとする時は、軽く考えていました。でも、いざ始まってみると凄く濃い内容で、チェーンソーの扱い方から林分調査(計算が難しい)の測定方法、安全な伐倒の仕方など目から鱗の内容でした。また丁度、鳥崎先生がとよた森林学校の校長をされていて、受講者に話をされている時にKOA森林塾の事を触れられていて、その時、初めてKOA森林塾の存在を知りました。講座が終了してからですぐインターネットで調べ、4回が11月にあることを知りすぐ申し込みました。やはり専門コースなので、とても内容が濃くて解りやすい講座でした。また実技を行った森がとても綺麗に管理されていて、やっぱりチェーンソーの技術だけを追い掛けるのでは無く、もっと森を管理する知識も身に付けたいと思えました。まだまだこれからもKOA森林塾にお世話になりますので、みなさん宜しくお願い致します。



初めまして。今回皆様と一緒に伐採の勉強をさせて頂きます、松崎と申します。よろしく願います。

私は、生まれも育ちも長野県であり、大自然と共に育ってきました。幼い頃から近くに川があり山があるのは当たり前、という環境でありますので、木の知識について深く考えることがありませんでした。なのでこの森林塾を通して、木の知識や伐採の技術、山の素

リレー通信



「森林塾にお世話になります!!」

松崎 誠

晴らしさを学ばせて頂いたと思います。

森林塾で学ばせて頂くきっかけになったのは、職場で伐採を自分達でも出来る様になるという思いからでした。私は今、別荘の管理の仕事をやっております。別荘地内の空き区画や緑地帯には枯れた木や見栄えが悪い木があり、取り除きたいと思っております。地元の業者に頼まずに自分たちで伐採を行う事により仕事の幅を広げられ、伐採作業中を見たオーナー様に「管理事務所では伐採までやるのか」と思ってもらえるようになりまして、信用と安心に繋がればいいと思いました。しかし、別荘地内の伐採は山の中と違い、電線や家が近くにある所がほとんどです。なので森林塾では、その様な場合を考えながら伐採の技術を学べたらと思います。

さて、ここからの話は、森林塾で学んだこと、感じた事等を書いていきます。

最後まで読んで頂けたら幸いです。

に、自分がこれまで行ってきた伐採がどれ程危険だったか思い知らされた一言です。

「基礎が出来ていない」「よく怪我なく伐採して来られましたね」

この言葉を聞き、私は思いました。「プロの人より知識はないが、安全面は自分なりに考えていたはずなのにまだ注意点があるのか？」と思ったのが森林塾一日目の朝でした。それもそのはず、受け口、追い口、チェーンソーの刃もまともに研いだ事のないド素人が、この危険と隣り合わせの伐採を行っていたのですから。怖いもの知らずとは、この事です。なので少しでも早く基礎知識を学ぼうと思ったことを覚えていきます。

森林塾一日目には、受け口、追い口、チェーンソーの研ぎ方等教えてもらいました。今でもありますが初めは受け口がうまく作れず、修正していくうちに切りすぎてしまう場合があります。数をこなすにつれ、修正回数が減ってきている気がします。

初めて一発で受け口が出来た時の感動は今でも忘れません。その時の感覚を忘れずに日々精進していくつもりです。

事を理解した今だから言えますけれど、私はつるをなめてました。初めは「あんなに少しつるを残したからつる木が倒れる方向は受け口のおかげでしょ。」と考えていました。ですが、森林塾二日目、三日目と伐倒の回数を重ねるにつれ、つるの大きさを実感しました。木が倒れないからといってツルを切ってしまうという事は無くなりませんでした。つるを全て切ってしまうとどこに倒れるかわかりません。そのことを思うとつる力恐るべしと毎回思っています。

受け口、追い口、つるといった基本的知識は身についたので、新たにチルホールを使った伐倒を教えてもらいました。このチルホールを使い初めて倒した時の衝撃はすごいものでした。私はこの時思いました。「ドラえもんのどの道具よりもチルホールの方が素晴らしい」と。

使用していきたくて思いました。他にもまだまだ知らない素晴らしい道具があると思いますので、より多くの道具を使用し、安全で効率よく伐倒していきたくて思っています。

ここまで伐倒の事を長々と書いてきましたが、一番重要なのは、チェーンソーだと思えます。正しい研ぎ方を教わり、会社のチェーンソーを研いでみました。すると切れ味や切れた切り粉が全然違うもので、切っていて気持ちいい感じがしました。目立ての大事さを改めて実感しました。目立ては、とても難しく、今でもうまくいかない時があります。数やっていくうちに段々と上達していくものなので、出来るだけ多く目立てをしていきたいです。

ここまでは、技術面の話をしてきましたが最終的に大事な事は、安全面だと思えます。伐採は、危険と隣り合わせです。一歩間違えれば命を落とすこともあります。その危険な仕事を行っていると常に考えながら伐採を行っていきたくて思っています。

おわりに

8月の初め、三日間好天に恵まれた集中コースの後のお休みを利用して、秩父多摩甲斐(信濃)つまはじきです(国立公園にあります、日本百名山のひとつ、金峰山に登ってきました。天気予報では晴だったのですが朝から薄曇り、わずかに見えていた富士山もすぐに霧で見えなくなりました。午後になると雷が怖いので、頂上の五丈岩の登頂は途中であきらめ、11時ころ下り始めたのですが、樹林帯に入ったころいきなり雷とそれに続く雨。命からがら(大げさでなく、当事者にはそう思われず)逃げ帰り、雨中行進1時間ほどで車に帰ることが出来ました。あゝ怖かった。帰途、甲府市街は猛暑日で、一滴の雨も降っていませんでした。夏山の雷雨にはご用心!!

我が家の畑には、半月以上雨が降っておらず、きゅうりはへたり、ナスはこちこち。

受け口や追い口も大事ですけれど、やはり一番大事なのは『つる』ですね。つるの

受け口や追い口も大事ですけれど、やはり一番大事なのは『つる』ですね。つるの

受け口や追い口も大事ですけれど、やはり一番大事なのは『つる』ですね。つるの

投稿大歓迎。ご意見、ご質問
ご要望は事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

